

50

感性がはじける、ARTがあふれだす。

第50回
沖縄県芸術文化祭

OKINAWA ART&CULTURE FESTIVAL 2021



感性がはじける、ARTがあふれだす。

第50回

沖縄県
芸術文化祭

OKINAWA

ART&CULTURE

FESTIVAL 2021

50

主催：沖縄県・（公財）沖縄県文化振興会

共催：東村・東村教育委員会・（公財）九州文化協会・沖縄県文化協会

後援：沖縄タイムス社・琉球新報社・NHK沖縄放送局・沖縄テレビ放送・
琉球放送・琉球朝日放送・エフエム沖縄・ラジオ沖縄

【お問い合わせ先】

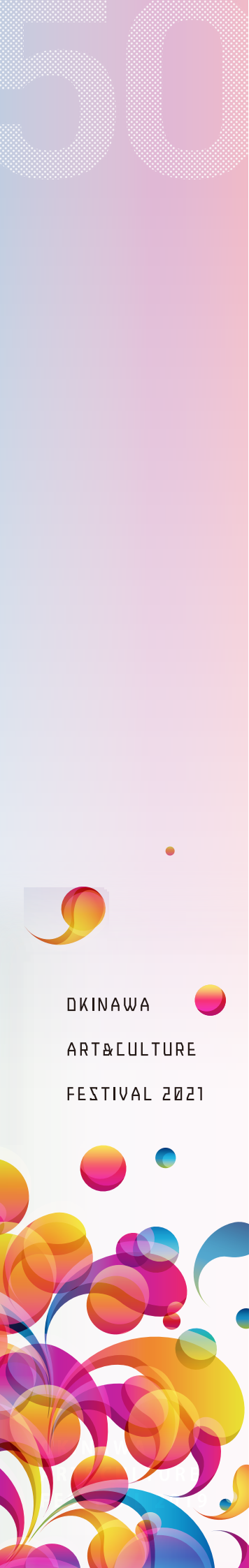
（公財）沖縄県文化振興会 TEL.098-987-0926

詳しくはHPをご覧ください

<https://www.okicul-pr.jp/kengeisai/>



書道・写真・美術 公募展



C O N T E N T S

主催者あいさつ	1
---------	---

書道公募展

審査講評・各受賞者作品	2
書道公募展出展作品一覧	6

写真公募展

審査講評・各受賞者作品	8
写真公募展出展作品一覧	12

美術公募展

審査講評・各受賞者作品	14
美術公募展出展作品一覧	18

年度別展示部門入賞者一覧	20
--------------	----

書道・写真・美術 公募展

本展 ————— 入場無料

沖縄県立博物館・美術館

2021/ 10/16(土)～24(日)

初日10/16日(土)は展示時間10:00～20:00(入館は19:30まで)

■開館時間／9:00～18:00(入館は17:30まで)

※金・土曜日は9:00～20:00(入館は19:30まで)※10/18(月)は休館日

写真選抜展 ————— 入場無料

東村立山と水の生活博物館

2021/ 10/26(火)～11/10(水)

※月曜日と11/3(水)は休館日

主 催 者 あ い さ つ



沖縄県知事

玉城 デニー

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら

第50回沖縄県芸術文化祭の開催に当たり、御挨拶を申し上げます。

沖縄県芸術文化祭は、県民の多様な文化芸術活動を奨励し、文化の向上と発展を目的として、沖縄が本土復帰した昭和47年から毎年開催しております。

昨年度はコロナ禍のために公募展が中止となり、大変残念でありましたが、今年も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、多くの県民の皆様から、書道・写真・美術の各部門合わせて462点もの熱意あふれる作品を応募いただいたことは、沖縄県の文化力の底力を示すものです。

応募いただいた作品の中から、厳正な審査の結果、261点の作品が入選されました。

沖縄県知事賞をはじめ、入賞された皆様並びに入選された皆様へ、心からお祝い申し上げます。

コロナ禍のため、文化芸術に関するイベントの縮小や中止を余儀なくされるなど、厳しい状況が続いておりますが、沖縄の文化芸術は、長い歴史の中でつくられ、伝えられてきた英知の結晶であり、人々が心豊かに生きていく基盤として、沖縄県の発展に欠かせないものです。

沖縄県としましては、今後とも県民の皆様が沖縄の文化に誇りと愛着を持っていたけるよう、多様な文化芸術活動を奨励・支援するとともに、芸術の感動を体感できる環境づくりに努めてまいります。

引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いします。

結びに、沖縄県芸術文化祭の開催にあたり、このような状況下においてもお力添えをいただきました審査員の先生方をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、御挨拶といたします。



公益財団法人 沖縄県文化振興会

理事長 稲福 弘

「感性がはじける、ARTがあふれだす。」

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら。

第50回沖縄県芸術文化祭公募展を開催するにあたり、御挨拶を申し上げます。

沖縄県芸術文化祭は、県民の皆さまの多様な芸術文化活動の奨励と優れた芸術作品の鑑賞機会の提供を通して、県民文化の向上に寄与することを目的に昭和47年度から毎年開催しており、今年で50回目を迎えます。

この50回という節目を迎えられたのも、ひとえに多くの県民の皆様をはじめ芸術家の皆様そして、審査員の先生方のご協力、ご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

今年も多くの魅力的で、個性豊かな入選作品261点と、審査員及び無鑑査資格者の作品をご鑑賞いただきたいと思います。また、写真作品につきましては、北部地域の方々に鑑賞の機会をひろげることを目的として、例年好評をいただいている写真選抜展を東村(東村立山と水の生活博物館)で開催いたします。

沖縄県文化振興会は、みせる・つなげる・ささえる・つくる・そだてるを五つの柱として、文化芸術活動の支援に全力で取り組んでおります。県民の皆様には、本芸術祭をとおして芸術文化活動を身近に感じ芸術文化を楽しむきっかけの一つとしていただければ幸いです。

最後になりましたが、新型コロナウイルスが蔓延し、十分な活動ができないという状況の中であるにもかかわらず、作品応募に挑戦していただいた皆さま、ご支援くださった関係者の皆さま、そして丁寧かつ熱意をもって審査して下さった審査員の先生方に心から感謝申し上げます御挨拶といたします。

沖縄県知事賞 「呉偉業詩」

知念 一正

全体として力が抜けて軽快なリズムで明るく書き上がっています。特に二行目は、文字の大小への繋がりがスムーズで心地よい。線の太細の処理も古典的な香いがして好ましい。墨量の不足している様にも感じる処も有るが、今後の課題としてほしい。潤渴の渴筆の部分は技量の高さを示していると思います。次に求められるのは迫力ある力強さを感じさせることが出来れば尚好ましい。迫力ある明るさと軽快さとは相反する事象なので、無理を承知で取り組んでほしいものです。県知事賞受賞おめでとうございます。

講評担当者 我喜屋 明正



第50回 沖縄県芸術文化祭

書道公募展

書道総評

今年はコロナ禍のため、前回まで恒例の公開審査は中止された。審査状況は以下の通り。

応募作品は、漢字・かな・調和体・前衛・篆刻・刻字と多岐にわたり、全112作品を総見し、入選を決める鑑別から審査開始。審査員11人の挙手により過半数6票以上獲得の98作品と、一昨年の展示実績を踏まえ、4～5票獲得作品を再見した中から1作が追加され、計99作品を入選と決定する。午後から入賞を選ぶ審査に移る。午前の鑑別で8票以上獲得作品から賞候補を推薦することになり、13作品(漢字8・かな3・篆刻1・前衛1)に声がかかる。この13作品を壁面に展示し、2回の投票の結果8作品に絞られる。3回目投票で最高得点9票に2作が並び、挙手により上位を県知事賞に、他方を県文化振興会理事長賞に決定。次の奨励賞も得点順に、7票2作(8票は0のため)と6票3作より投票で1作選び、計3作品に決定。新人賞は上記候補作品のうち残り3作より前衛作品に決定*。前衛作品の受賞は初めてであり、今後に期待する所大。

又、コロナ禍の影響か、今回応募数の減少はやむを得ないが、困難な中で精一杯エネルギーをぶつけて制作した作品の数々は見ごたえ充分、必ずや観る者の心に響く表現で元気を与えてくれることと思う。

先の見えない現状生活はまだしばらく続きそうだが、こんな時こそ初心に還り、臨書に励み基礎力を高め、内面からの“自分磨き”が大事と思う。お互い、さらなる精進を…。

★新人賞は“過去に受賞歴のない者”との規定があるため。

書道部門審査員長 小杉 紘南

奨励賞 「安身為楽 無憂為福」

安里 涼子

氏の二顆の作品は安定感のある作品と、動きのある作を制作した物である。側款の拓の黒と、印泥の朱の色のコントラストが美しい刀タッチの切れ味が機敏さがあり、観る人の目を惹きつけた。
印面に字を書き入れる時は「方寸の世界に遊ぶ」という気持ちが印刀に情熱と、思いをぶつけて作品に心した事が感じられる。
さて、「安身為楽」は小篆を用いて朱文印にし、為の字を趙古泥の字を活用した事で構成をうまく纏め引き締めた、バランス良く仕上げた作になった。「無憂為福」白文印を金文で書き疎密にして垂字形で四隅を押さえた作は、線の妙味、輪郭の処理の仕方も雅味があり味わい深い。側款を隷書で纏め上げた事で成功した躍動感ある作品となった。制作活動にさらなる研鑽を期待致します。

講評担当者 東江 順子



奨励賞 「家兄焦山に信宿して 寄せる有り」

平良 祥太

奨励賞受賞 おめでとうございます
明清代の詩人、王漁洋の「家兄焦山に信宿して寄せる有り」五言古詩50字を、3行の行草連綿作である。
作風は、師が推奨する伝統書を踏襲し、曲線を基軸に要所に直線を挿入して凛とさせ、墨痕鮮やかにして威風堂々とした佳作である。
文字群の構成は、文字の個性を活かしながら大小・線の太細・長短を駆使し、以て行に穏やかな流れを作り、且つ行間には楽しい語らい(減り張り)を醸し出し、鑑賞者の足が止まる作品と観る。

講評担当者 仲里 光雲

新人賞 「いつくしむ」

岸本 泰子

この度の新人賞に前衛書の岸本さんの作品が入賞されました。おめでとうございます。
前衛書とは文字性を超越した自由な発想による表現によるものです。漢字文化圏から生まれその壁を突破しようと明治期の西欧化にはじまり戦後表現主義へと現代書は生活様式も変化した国際的になっています。基礎となるのは古典(楷行草隷篆かな)の臨書です。
岸本さんの作品はバランスがよい。紙面に迫力と繊細さを感じます。題は「いつくしむ」、慈を分解し、上中下の部分部分が響きあっている。中の部分が動き出しそうで躍動感があり、下の細い線がさりげなく効果的である。紙面の余白の生かし方に魅力を感じる秀作です。
今後に期待します。

講評担当者 濱元 加陽

沖縄県文化振興会理事長賞 「杜甫詩」

仲村 冴子

ー全体の調和ー
大字四行の隷書体、四行後半から細字三行の行書体で構成された作品は、グレーのぼかしの料紙と潤いのある墨色が作品全体を優しく包み込み一瞬にして目を引く作品となった。やゝすると隷書作品は楷書作品同様堅苦しくなりがちだが、この料紙と墨色の効果もさることながら一字一字の計算された構築さが立体感を生み、また四行目後半の細字行草体が全体を引き締めている。この行草体は字間も等間隔で一貫性を保ち鎌度の高さが際立っている。この細字が大字の隷書体をしっかりと受け止め相乗効果を生み出している。
このように紙、墨、構成が一体化し調和がとれ、今回の受賞に結びついた。
今後も気負わず楽しみながら精進されることを期待する。

講評担当者 運天 南陽

奨励賞 「陳道復（白陽山詩）」

天久 美津枝

天久さんおめでとうございます。第50回沖縄県芸術文化祭(書道部門)において栄誉ある奨励賞を受賞されましたことを同じ書道仲間として嬉しく思います。これも偏に貴女様の書芸術全般に対しての真剣で緻密な研究成果としての評価だと思います。貴女がこれからもこの姿勢を堅持していくことを願っております。今回の作品は染色画仙紙を使用しているせいか、墨色が背景の紙色におされている感じがしていました。
もし普通の画仙紙であれば墨色もはっきりとし、作品もまた違った雰囲気を感じ出したと思います。字形については縦の流れはあるがもう少し横へのはりも考慮して欲しいと思う。
次回の作品に期待します。

講評担当者 渡名喜 溪水



書道公募展作品一覧

審査員出展作品

題 名	サイズ	種別	氏 名
臆力愛慎	D	篆刻	東 江 順 子
徳之華	A縦	漢字	運 天 南 陽
幽	C	漢字	我 喜 屋 明 正
漢詩	A縦	漢字	我 部 玉 萩
もみぢ	B横	かな	小 杉 紘 南
松巖	B縦	漢字	砂 川 桂 峰
語句	A縦	漢字	渡 名 喜 溪 水
支公禪院	A縦	漢字	仲 里 光 雲
SHURI	B横	前衛	濱 元 加 陽
神品不滅	A縦	漢字	福 原 瑞 堂
月かげ	B縦	かな	村 山 穂 舟

無鑑査出展作品

題 名	サイズ	種別	氏 名
寒山詩	A縦	漢字	上 門 か お り
墨	B縦	漢字	神 山 律 子
龍應鳴鼓	D	篆刻	金 城 多 美 子
篠原鳳作句	A縦	調和体	島 尚 美
うき世	B縦	かな	新 里 明 美
春暁	A縦	漢字	高 江 洲 朝 則
王維詩	A縦	漢字	仲 舛 由 美 子
琉球漢詩	B横	漢字	中 村 裕 美
静坐吟	A縦	漢字	西 蔵 盛 英 雄
師の言葉	A縦	調和体	眞 喜 屋 美 佐

書道入賞作品

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
沖縄県知事賞 呉偉業詩	A縦	漢字	知 念 一 正	那覇市
沖縄県文化振興会理事長賞 杜甫詩	A縦	漢字	仲 村 冴 子	沖縄市
奨励賞 陳道復(白陽山詩)	A縦	漢字	天 久 美 津 枝	読谷村
奨励賞 安身為榮 無憂為福	D	篆刻	安 里 涼 子	那覇市
奨励賞 家兄焦山に信宿して寄せる有り	A縦	漢字	平 良 祥 太	南風原町
新人賞 いつくしむ	A縦	前衛	岸 本 泰 子	名護市

書道入賞作品

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
長恨歌	B縦	漢字	久 貝 美 和	宮古島市
春雲	A縦	漢字	亀 川 盛 敏	西原町
催租行	A縦	漢字	宮 城 政 子	西原町
風光明媚 頂点立地	D	篆刻	上 原 和 子	那覇市
心地光明 夏雲奇峰	D	篆刻	上 間 道 子	那覇市
守道有天知 廓然無聖	D	篆刻	田 頭 節 子	那覇市
高青邱詩	A縦	漢字	神 里 和 子	南風原町
蔡文溥詩	A縦	漢字	玉 木 園 子	那覇市
唐洞寺に宿す	A縦	漢字	長 堂 加 代 子	読谷村
漁家の壁に題す	A縦	漢字	柊 崎 ケ イ 子	浦添市
春日山行	A縦	漢字	与 儀 好 子	那覇市
李白詩	A縦	漢字	仲 宗 根 司	沖縄市
漢詩	A縦	漢字	玉 那 覇 明 美	与那原町
中今	C	刻字	赤 田 綾 子	那覇市
意見寄言や身ぬ上ぬ宝	C	刻字	新 里 泰 子	豊見城市
蘇東坡詩	A縦	漢字	伊 佐 直 美	宜野湾市
雪月花II	A縦	漢字	上 原 孝 之	豊見城市
戯子由	A縦	漢字	玉 元 庄 弘	うるま市
杜甫詩	A縦	漢字	古 賀 日 奈 子	西原町
高啓詩	A縦	漢字	内 間 カ ズ 子	浦添市
寒山詩	A縦	漢字	香 村 春 乃	読谷村

書道入選作品

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
黃庭堅詩	A縦	漢字	真 栄 田 義 之	那覇市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	與 那 覇 律 子	宜野座村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	川 上 タ ケ ミ	北中城村
王維詩	A縦	漢字	佐 渡 山 香	宜野湾市
寒山詩	A縦	漢字	島 田 直 子	うるま市
連りに雨ふりて江漲る 二首	A縦	漢字	湧 田 市 子	沖縄市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	富 山 美 智 子	宜野湾市
蔡肇功	A縦	漢字	宮 城 み ち 子	中城村
謝維焜詩	A縦	漢字	久 志 す ぎ の	沖縄市
陸游詩	A縦	漢字	宮 城 律 子	宜野湾市
前有樽酒行	A縦	漢字	新 垣 貴 子	那覇市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	有 銘 盛 古	宜野湾市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	與 那 覇 初 子	北谷町
李太白詩	A縦	漢字	伊 禮 か お る	豊見城市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	比 嘉 さ つ き	沖縄市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	川 上 秀 子	北中城村
陸放翁詩	A縦	漢字	屋 良 美 香	沖縄市
伯氏の「長蘆寺の下」に次韻す	A縦	漢字	永 山 千 里	那覇市
春望	A縦	漢字	喜 納 八 重 子	読谷村
程順則詩	A縦	漢字	伊 波 エ ツ 子	読谷村
杜甫詩	A縦	漢字	宮 里 え り 子	浦添市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	徳 里 美 代 子	嘉手納町
寒山詩	A縦	漢字	金 城 美 恵 子	沖縄市
題岳陽樓	A縦	漢字	上 原 好 美	読谷村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	安 里 弘 子	沖縄市
大梁冬夜	A縦	調和体	古 堅 直 子	伊江村
感懷 他一首	A縦	漢字	田 福 宏 美	石垣市
寡言	A縦	漢字	川 満 廣 子	那覇市
嘉禾 他一首	A縦	漢字	仲 原 真 津 枝	宜野湾市
清晨 他一首	A縦	漢字	星 川 初 見	北谷町
白楽天詩	A縦	漢字	安 座 間 美 季	那覇市
白楽天詩	A縦	漢字	新 城 円 香	豊見城市
みやこ	B横	かな	渡 名 喜 香 代 子	浦添市
つくづくと	B横	かな	宮 里 民 子	宜野湾市
七夕	B横	かな	古 波 蔵 悦 子	宜野湾市
春	B横	かな	儀 間 廣 子	浦添市

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
春霞	B横	かな	外 間 匡 美	宜野湾市
花のやどり	B縦	かな	仲 里 美 智 子	宜野湾市
あさきゆめみし	B横	かな	福 原 美 枝	うるま市
細道を	B横	かな	渡 慶 次 喜 代 美	嘉手納町
あけぼの	B横	かな	仲 栄 真 律 子	沖縄市
夕日さす	B横	かな	仲 村 妙 子	沖縄市
雲の遠方	A縦	かな	宮 城 多 佳 子	浦添市
海のほとり	B横	かな	赤 嶺 弘 子	うるま市
栢檀の木	B横	かな	比 嘉 栄 子	北中城村
月の桂	B横	かな	喜 友 名 正 子	北中城村
梅の花	B横	かな	饒 平 名 真 由 美	那覇市
瀧の音	B横	かな	喜 友 名 晴 香	北中城村
花の宴	B横	かな	志 田 美 代 子	浦添市
秋思 二首	B横	かな	伊 波 正 明	うるま市
秋の暮	B縦	かな	照 屋 典 子	南風原町
秋の歌	B横	かな	喜 納 竹 子	与那原町
清水比庵の歌 二首	B横	かな	當 間 秀 美	那覇市
花の色	B横	かな	仲 里 美 代 子	南風原町
潔	A縦	前衛	山 田 瑠 美	糸満市
秋浦歌 其十七	A縦	漢字	豊 平 美 奈 子	豊見城市
二月一日汎舟西溪	A縦	漢字	真 栄 田 ミ ネ 子	那覇市
夜眺 他一首	A縦	漢字	近 江 幸 子	糸満市
美しき天然	A縦	調和体	後 藤 豊 彦	那覇市
虎山橋玩月	A縦	漢字	島 袋 朝 敏	那覇市
支硎山にて再び文交木太守を餞る	A縦	漢字	嶺 井 由 起 子	那覇市
和陶其一	A縦	漢字	翁 長 淳	那覇市
夜雨友人と偕に舟を雲門に進める	A縦	漢字	小 橋 川 ス ガ 子	那覇市
沈石田の故居を訪う	A縦	漢字	金 城 純 子	浦添市
雑詩 其三	A縦	漢字	宮 本 康 申	西原町
海	B横	調和体	古 謝 政 子	嘉手納町
雅志	A縦	漢字	桑 江 遼	浦添市
いし山の石よ利	B縦	かな	諸 見 里 史 子	与那原町
漢詩 三首	A縦	漢字	島 津 和 美	名護市
漢詩 四首	A縦	漢字	眞 謝 幸 代	名護市
勝宇嶽	A縦	漢字	渡 口 葉 子	うるま市
杜甫詩	A縦	漢字	宮 城 律 子	沖縄市

第50回 沖縄県芸術文化祭

写真公募展

写真総評

沖縄県立博物館・美術館のサイドヤードに設けられた部屋にて午前10時から審査がスタート致しました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、応募者に対する公開審査会も中止になり、いつもとは違う雰囲気の中で審査に臨みます。

昨年より少ない応募になりましたが、それでも200点以上ある作品です、審査員もそれぞれの主観で注視。約5時間後の3時にやっと入賞、入選が決定致しました。

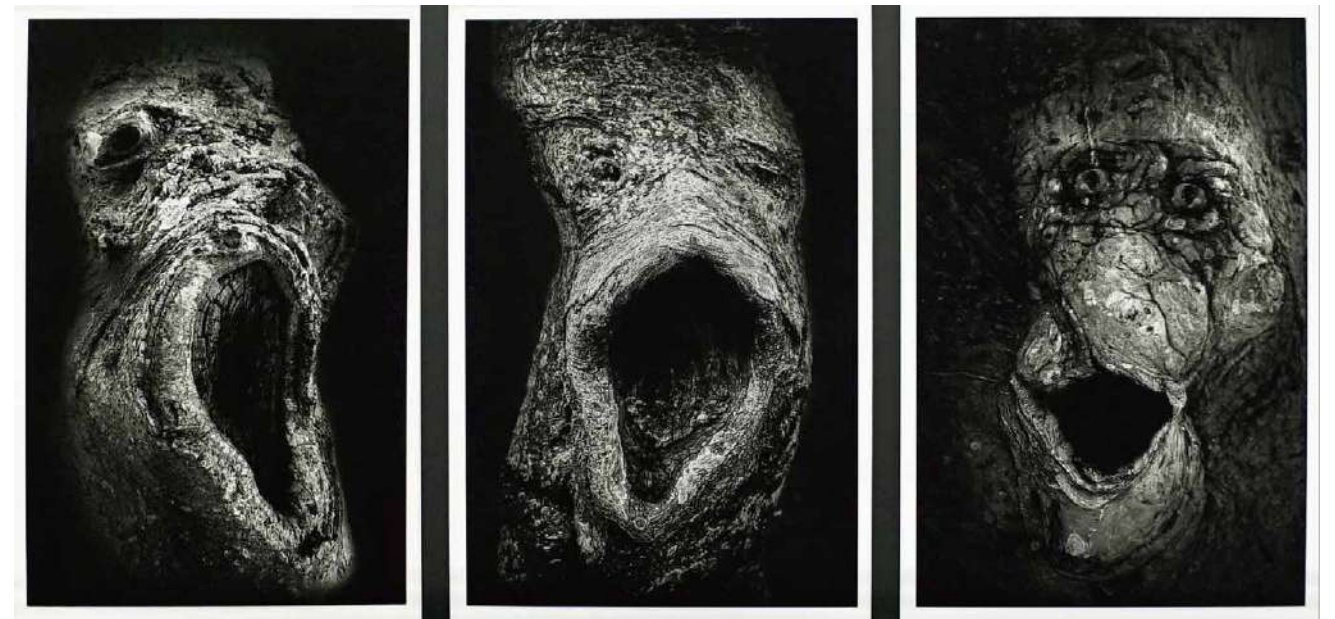
前回はそうでしたが全体的にインパクトのある作品が乏しく相変わらずどこかで見たような作品が目立ちました。作品の模倣は、それ自体、建設的作品習得法ではありますが、模倣に終わってはいけません。作品に自分の感性をぶつけ自分だけのオリジナルを完成させねばダメです。

惜しいかな出展作の多くがその手前で終わると言う結果になっていました。しかし、中にはキラリと光る将来性が垣間見える作品があり、少し安心できました。

写真力の増進には良い作品や気になる作品を何度も見て、自分の感性に落とす事と思います。

これからもアナログとデジタル表現の絡み合う県芸祭になるであろうと予測はされますが、究極はアナログ、デジタルという所ではなく作者のより深く踏み込んだ表現に落ち着くと思います。

写真部門審査員長 東 邦定



沖縄県知事賞 「樹の叫び」

屋富祖 良敬

我々は古くから、樹齢を重ねてきた樹木にロマンを感じてきた。その幹はある時は人為的に傷つけられ、また自然に腐朽(ふきゅう)したにも関わらず、自らの再生力によって傷を残しながら力強く生きていく。そこに、風格のある古木の知を超えた姿を見てしまう。

人間は古壁の模様や雲の形が、何かの形に見えてしまう。心理学では、このようにあいまいな物の中に人の顔や動物が見えてしまう事を、パレイドリア現象というらしい。

作者は「公園のガジュマルの木がムンクの絵画『叫び』のように見えた」そうである。その簡単には枯れないガジュマルの、自らの傷を直そうと長い年月をかけた変身が、作者によって再発見される楽しい小旅行を介して、写真作品へと美しく昇華した。

そして、軽快な画面の切り取りと、絶妙なモノクロの濃淡の表現で、不気味とユーモラスの丁度良い中間の面白さで、我々の目前に姿を現したのである。

講評担当者 仲本 賢



沖縄県文化振興会理事長賞 「ビバ！栄町」

玉城 健次郎

心理学者、アッシュが実証したという、同調現象。それは集団の中に生まれる意思が統一する現象。那覇の栄町、土曜の夜に人々が集う界限がある。古には村々に未婚の男女が夜に集う、アシビナーなるものがあつた。古も今日も人々が、集いひと時をエンジョイするのは、同調現象の働きなのだろうか。作者はこの遊びの中に、同調現象を捉えるためシャッターを切ったのかも知れない。そんな作品に仕上がった、なんとも心地よい作品である。

講評担当者 島元 智



奨励賞 「宇宙のまなざし」

名嘉 久美子

作者は無限に広がる宇宙の彼方で輝く星々の神秘さに魅せられ、星空撮影に取り組んで来られたと推察します。しかし、自分の作品に妥協することなく、宇宙を擬人化したこの作品は大変ユニークで構想の雄大さに度肝を抜かれる作品です。

作者は撮影適地を探し架橋を利用し、画角、アングル、撮影位置を変えながら何度もトライし、星空と地上の被写体を半々に配置しこの作品を創り上げています。

同心円の瞳孔でこの地上の全ての物が見透かされている様にも感じられ、また宇宙に吸い込まれていくような力強さも感じます。

写真のタイトルにも「まなざし」の言葉を使い、作者の宇宙に対する思いを感じさせる素敵なタイトルです。ただ、手前の架台に乗った小舟を入れなければ、もっと完成度が高い作品に仕上がったと思います。

講評担当者 宇久田 全正

奨励賞 「木漏れ日」

正木 スエ子

写真コンテストの応募作品の中では、以前から特に風景写真の出品数が多いように感じられる。その様な中から作品審査の際、風景写真以外の分野の写真も含めて多くの魅力ある作品をみて行くと写真として記憶に残る作品とそうでない作品がはっきりとしてくる。

優れた作品は、一次審査、二次審査と選考が深まるにつれて作品の持つ存在感が増してくる。その様な中から奨励賞として作品名「木漏れ日」は選ばれた。

滝下に黒光りする岩々に、水が落ちて弾ける飛沫が織りなす流動と静止の瞬間に、季節感と高貴さを感じさせる黄金色の小枝から光が溢れ落ち、その光は岩々を覆うかの様な水煙に虹を作り出している。落下する滝の表現では、オーソドックスな絹布や糸を引いたかの様なシルクの表現とは異なり、連なる水滴を残しつつ煙の様な飛沫と木漏れ日によって作り出された神々しい虹や光、自然が織り成す神秘的な雰囲気素晴らしい感性で捉えている。

講評担当者 根間 芳和



奨励賞 「巣ごもりダンパチ」

長濱 大

コロナ自粛で断髪屋さんに行けず、ご自宅でバリカンを当てるお父さん、嫌がる子、それを撮影するおじいちゃん？。この子にはお気の毒ですが、実に微笑ましいシーンです。シャッターチャンスを見逃さなかった作者、見事です。顔をアップで捉えたことで表情もよくわかります。ただ、プリントが若干薄いようですので、もう少し黒を締めても良いかと思います。タイトルも時事性があり、良いと思います。

さて、「コロナで撮影に行けないさー」とお嘆きの写真愛好家の皆さん。今回、最終選考にもう1点チャンプーの男の子が残りました。遠くに出かけなくても、あなたの身の回りに、素敵な素材が沢山ありますよ。また、肖像権云々で後ろ姿が多くなったスナップ写真ですが、身内ならこの作品のように思い切り正面から撮れます。是非、挑戦なさってはいかがでしょう。

講評担当者 西原 けんじ

新人賞 「この道ひとすじ」

島田 美佐子

夢中でミシンを踏み続ける手元に使い切りそうな大きな巻糸。刺繍するその両手に、タイトル通りこの道ひとすじに生きて来た忍耐強さが伝わって来る。作者と職人との近しい温かい人間関係も写り込んでいる。写真をじっと見ていると記憶の扉が押し開けられて、本土復帰前の時間へと逆行して行く。基地のある街に溢れる米兵やそのファミリー、ベトナム戦争で賑わって行く日々。英米沖のポップス、ハードロックそして琉球民謡も島中に流れていた波乱の沖縄。通りには、サテンのジャンパーが店先に飾られ、その背には、沖縄の地図と OKINAWA の文字が眩しく目立っていた。戦後と刺繍全盛時代を乗り切ってきた手は、優しく大きく力強く時間を縫い続ける。控え目だが、深読みさせる作品。ミシンの音、サンシンの音色も聞こえてきそう。新人賞おめでとうございます。

講評担当者 伊波 美砂



写真公募展作品一覧

審査員出展作品

題 名	サイズ	種別	氏 名
金細工師 又吉健次郎氏	全紙額付き6点	組	東 邦 定
光のシャワー	60.4×74.4	単	伊波 美砂
時間を旅する	60.4×74.4	単	伊波 美砂
わたくさー（小遣い）	55×55	単	上原 健次
引き裂かれた大地	80×100	単	宇久田 全正
霊世	120×90(6枚組)	組	島 元 智
パノラマ [131120_154735-154903_Nachaj]	111.7×165.0cm	単	仲 本 賢
ボクサー	55×155	組	西原 けんじ
あるカタチ	70×100	単	根間 芳和
「時代の流れ」	半切	単	屋良 勝彦

無鑑査出展作品

題 名	サイズ	種別	氏 名
お出かけ	61×72	単	國吉 倅明
平和ってすてき（慰霊の日）	85×114	組	松門 重雄

写真入賞作品

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
沖縄県知事賞 樹の叫び	72×110	組	屋富祖 良敬	那覇市
沖縄県文化振興会理事長賞 ビバ!栄町	80×110	組	玉城 健次郎	浦添市
奨励賞 宇宙のまなざし	60×75	単	名嘉 久美子	豊見城市
奨励賞 木漏れ日	61.5×76.5	単	正木 スエ子	宜野湾市
奨励賞 巣ごもりダンパチ	61.4×72.4	単	長 濱 大	豊見城市
新人賞 この道ひとすじ	113×85	組	島田 美佐子	うるまし

写真入選作品

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
次世代へ紡ぐ伝統の心	60×90	組	知念 清市	今帰仁村
感染予防	125×70	組	名嘉 久美子	豊見城市
タッチした〜い!	72.4×61.4	単	伊藤 俊雄	宜野湾市
漁網	52×63	単	兼島 善秀	那覇市
翔	61.5×72.5	単	米田 保孝	那覇市
濡れ髪少女	81×57	単	比嘉 功助	沖縄市
楽園	66.5×125	組	新垣 隆吾	与那原町
漂う	72.5×61.5	単	新垣 隆吾	与那原町
音色に誘われて	82×112	組	楚南 富美子	那覇市
生きる	78×108	組	島本 孝一	沖縄市
眼(まなこ)の向こう	65×159	組	玉城 健次郎	浦添市
お客様の屋下がり	76×62	単	新垣 フミ子	南風原町
夜空にたなびく	108×82	組	新垣 フミ子	南風原町
ハリーポッターの世界	62×76	単	仲吉 佑美香	南風原町
夕空のモチーフ	61.5×76.5	単	正木 虎夫	宜野湾市
捕獲	45×62.5	単	正木 スエ子	宜野湾市
秋の日に	62.5×51.3	単	島袋 メリ子	宜野湾市
帰り道	112.5×58	組	島袋 メリ子	宜野湾市
眼光炯炯	62×51	単	下 地 宏	沖縄市
ばくのお手伝い	76.1×61.4	単	安田 正昭	那覇市
シルミチューのハチウガン(初拝み)	61.4×76.1	単	安田 正昭	那覇市
スマホに夢中	52×62	単	又吉 全一	豊見城市
予選通過?	62.4×51.4	単	松 田 理	北谷町
おふる仮面	53.5×73	単	真栄城 浩	北谷町

写真入選作品

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
我が友 ハイデオン君	113×73.5	組	祖慶 良男	那覇市
識名園	63×73	単	喜友名 寛	沖縄市
中村家	77×94	組	喜友名 寛	沖縄市
なかゆくい	54.6×67.5	単	島田 美佐子	うるまし
海の見える風景シリーズ-朝焼けの海9景-	105×140	組	稲嶺もりみつ	うるまし
水辺のハンター	80.5×154	組	おおきゆうこう	南風原町
慈愛	72.5×61.5	単	具 志 明	八重瀬町
ニューファミリー	113×82	組	具 志 明	八重瀬町
盛夏の頃(せいかのころ)	69×78.5	単	比嘉 久美	南城市
有無風(あびなかせ)	69×78.5	単	比嘉 久美	南城市
真夏日(まなつび)	59×79	単	神 田 守	那覇市
雨の散歩道	52×62	単	安次嶺まり子	那覇市
風雪の滑走	42×59.4	単	原国 政裕	豊見城市
夏本番	62×80	単	城間由美子	八重瀬町
長雨の後に	69×90	単	城間由美子	八重瀬町
宵翼〜SHOYOKU	171.5×178×88	立体写真	John H.Tien	読谷村
あっぱっぱ!	62×76	単	安里 涼子	那覇市
番犬	51×62	単	永味 節子	中城村
チンカン橋(大浦川の沈下橋)	66×109	組	玉城 正一	豊見城市
運命の出会い	61.5×72.5	単	長 堂 哲	読谷村
冒険の世界へようこそ	82×105	単	長 堂 哲	読谷村
四畳半画家	65×77	単	高田 和泰	那覇市
県民の足	76×123	組	高田 和泰	那覇市
森の聖	60×74	単	新垣 良子	那覇市
平和な日々	86×62	組	新城 直美	宜野湾市
サハラ朝	96×66	組	新城 直美	宜野湾市
薄暮の頃	109×78	組	大城 慶子	豊見城市
風に揺られて夢の中	51×62	単	赤嶺 喜孝	那覇市
侵入者	53×64	単	赤嶺 喜孝	那覇市
少女と東京タワー	56.5×77.5	単	又吉 英男	浦添市
形象	69×142	組	又吉 英男	浦添市
外出自粛中	62×72.5	単	麓 隼 人	那覇市
食事の時間	63×52.5	単	麓 隼 人	那覇市
抜け道	83×113	組	花城 雅孝	那覇市
収穫のよこび	103×55	組	大城 勝子	糸満市
黄金色のピーグ	65×136	組	仲道 幸子	うるまし
高く上がるといいな〜	84×63	単	宮良 正子	うるまし
子育て奮闘中	78×56.5	組	仲地 恵子	北谷町

題 名	サイズ	種別	氏 名	市町村
愛の誘い(あいはいざない)	75×56.2	単	平安座 律子	沖縄市
75年目の朝	104×73	組	國 吉 稔	浦添市
朝市	68.5×78.5	単	砂川 盛榮	浦添市
ひょっこり	51.5×62.5	単	新垣 允啓	豊見城市
ふわりと舞う	64×78	単	新垣 允啓	豊見城市
むらが熱く燃える日	30×21	写真集・A4判	平田 善信	豊見城市
それぞれのカップル	58×72	単	我喜屋 功	那覇市
街の風物	58×72	単	我喜屋 功	那覇市
お兄ちゃんのよみきかせ	48×63	単	古波蔵 花子	那覇市
ネコとの時間	57×62	単	宮城 哲子	那覇市
welcome	97×47	単	阿部 典子	那覇市
平安座島のサングァチャー	125×55	組	富村 盛信	那覇市
笑顔の常連さん	60×74.5	単	金城 光男	西原町
七彩	68.4×88.2	単	山田 恵美子	うるまし
て・あ・て	63×52	単	大城 敏雄	与那原町
銀河航路	65×75	単	大城 敏雄	与那原町
闘志満々	77×57	単	仲本 昌雄	うるまし
おねだり	76×62	単	与儀 文夫	中城村
名ハンター	72×89	単	菅 原 壮	沖縄市
ソーシャルディスタンス	51×62.5	単	天久 昌子	浦添市
セッションを聴かせて	51×62.5	単	天久 昌子	浦添市
一網打尽	51×62	単	仲程 梨枝子	那覇市
鮭干し	51×62	単	仲程 梨枝子	那覇市
夕陰	109×63	組	みやら 文	那覇市
火祭りの勝者	55×65	単	砂川 悦子	豊見城市
力花火	67×56	単	砂川 悦子	豊見城市
Dance Dance Dance	83×113	組	安里 寿美	沖縄市
ホテルと戯れる日	48×63	単	具志堅 一彦	宜野湾市
天の川作成中	53×63	単	具志堅 一彦	宜野湾市
導き	63×84	単	幸喜 あかり	沖縄市
また咲き誇る為に	35.6×43.2	単	大城 智子	南風原町
きょうだい	62.5×51.5	単	新里 ゆきえ	那覇市
朝日を浴びて	51.5×62.5	単	新垣 全哲	西原町
ウトウシ	55.5×75	単	崎濱 慶子	那覇市
木賃宿	77×70	組	崎濱 慶子	那覇市
ほのぼの	56×45.7	単	金城 真紀子	与那原町
二人の時間	68×78	単	照 屋 明	浦添市
仲良し	63.5×63.5	単	永山 直樹	沖縄市



第50回 沖縄県芸術文化祭

美術公募展

美術総評

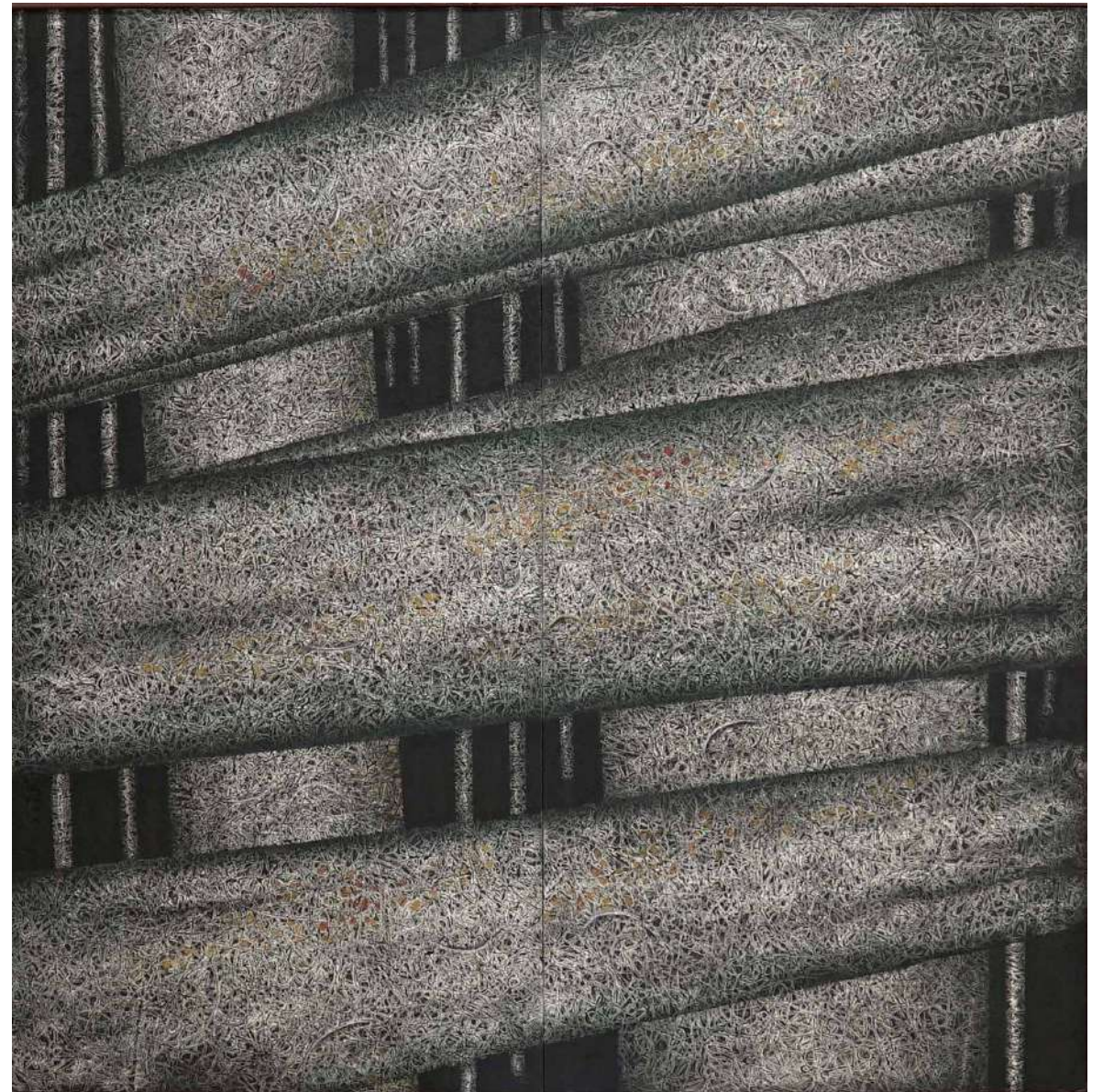
創作意欲の高揚と芸術活動への参加を呼びかけに、今年度の審査会が始まった。日程の説明・応募点数・展示可能数等の報告・審査要項確認（保留の発声と入選の過半数）について確認した。美術部門、今回の応募総数は111点。内訳（平面93、立体18）意欲的な作品が揃いました。審査に入る前に、全体作品の傾向と特徴等を見るためにまず総見から始まり、その後、各作品の審査へと進めていく。作品への思い入れと、情熱を受けとめつつ、造形性、技法、画面構成、色彩効果、支持体等の確認などをおこない、主題の明確さ個性的表現に注視した。審査は9名の審査員の過半数（5名）の挙手により56点の入選が確定した。次に賞候補として推薦があがった作品12点を1回目の挙手により10点、2回目の挙手で7点に絞り、更に6回の投票により、各6点の入賞が決定、それぞれ僅差の結果でした。各賞の講評は担当審査員に委ねるとし県知事賞・理事長賞・奨励賞の作品に若干述べてみたい。

- 県知事賞／平川宗信氏の作品「黒い森」／完成度が高く、大幹の構図と、色調の効果が森の奥深さ、拡がりを感じさせ観る人を引きつけ共感を伴い、深層を実感させる。
- 理事長賞／鈴木まこと氏の作品「知不知」／主題とつながる、シンプルな造形表現に独創性がみられ、螺旋状の表面に見える紋状の形、透明感は、釉薬の施しだろうか、ラッピングされた器に景色・土器が現れる。
- 奨励賞／城間文雄氏の作品「なんきんはぜ」／伊志嶺達雄氏の作品「龍が住んでた柱」／砂川恵光氏の作品「沖縄の沈黙」／新鮮な感じをうけ、表現のバリエーションが豊富で、発想に独自性がみられ、素材や技法にも作家の感性やこだわりが感じられる。
- 新人賞は賞候補の作品から棚原麻里奈氏の作品「灯華」が受賞。

課題としては、小品に留まることなく大作に挑む気概がほしい。額装は作品と表裏一体であり鑑賞に堪えうる仕上げを意識してもらいたい。

各々が異なる表現形式や感性の密度を共有し、展示会場において美術の多様性の豊かさを実感して頂きたい。

美術部門審査員長 宮里 昌信



沖縄県知事賞

「黒い森」

平川 宗信

県知事賞の受賞おめでとうございます。ここ数年の氏の、めざましい創作活動に、改めて敬意を表します。

「黒い森」は、氏のこれまでの作品の中でもインパクトの強い、心に残る作品です。重厚なマチエールの妙と、大胆な画面構成をバックの黒が引きしめ、相互的に深め合い、圧倒的な迫力でせまってくる。抑えられた色面に、ほのかな赤、黄、グリーンが効果的に散りばめられて、色彩の広がりをも伝えてくれます。画面構成の斜めの色面と、背景の直線面が美しいバランスを保ち、力強く堅牢な作品に仕上がっています。

「ヨーンの道」と呼ばれる南国の強烈な光と影の世界をも連想させてくれる作品です。

コロナ禍の日々、作品に取り組む作家達にも展示する場が限られ厳しい現状です。この中で真摯に作品に取り組み、創作の炎をたやすことない氏に、心から拍手をおくり今後のさらなる作品の展開を期待致します。

講評担当者 上原 成美

奨励賞 「沖縄の沈黙」

砂川 恵光

画面に垣間見える多数の象徴的形象。県蝶のオオゴマダラの横にデフォルメされた人らしき姿。首をねじまげ、ゆがむ口、うつろな目。空洞の胴体が浮遊する。地に埋まる人骨の影、美しくなりかけながら力ない薄色の海岸線に、ジュゴン影もあるのか。

色彩に目を向ければ、亜熱帯の強靱さでせり出してきそうでいながら沸点に達しないかのような赤系統色、沈思する青。

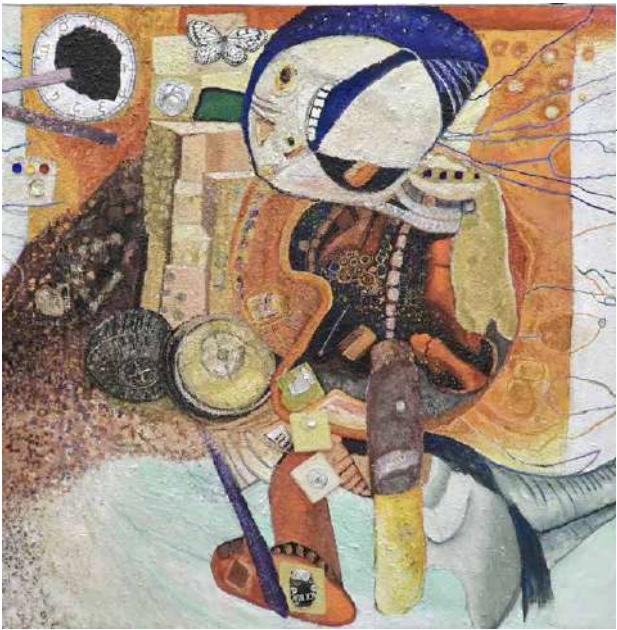
“叫びに疲れた沈黙”…?!

沖縄の現状へと思える象徴性で、見る我々に語りかけてくる作品であるが、画面における方形や曲面の対比、線による補助的アクセント、色彩のハーモニーや寒暖、補色の対比等の造型バランスの感性傾注がそこに在る。

視覚表現の絵画造型として昇華、成立させ得たことが今回の受賞評価であると考え。

美術表現する者の共感と共に、制作探求継続への期待と称賛を送りたい。

講評担当者 大城 譲



奨励賞 「龍が棲んでいた柱」

伊志嶺 達雄

今回の作品の為に、自作の簡易窯に大量の木炭を詰め込み二日間かけて九百度で焼成した労作である。

可能な限り装飾を拒否したシンプルな円柱形で先端をドーム形に成形している。陶肌はあまりに粗粗しい故に痛痛しく、沖縄の独自色の赤土が風土性を醸しだして強い存在感を放っている。

作者は、首里城正殿の柱には龍が棲んでいたとの言い伝えがあると言う。一昨年の大火災で棲家を失った。沖縄の象徴崩落は多くの県民に衝撃を与えアイデンティティーの喪失で心の中にぽっかり穴が空いた。

作者は 2018 年の同文化祭でハンセン病をテーマにした作品で県知事賞を受賞するなど社会問題を作品として具現化している。

現状コロナ感染拡大防止のために強いられている非日常、収束が見通せないことへの鬱積した不安や怒り。社会的弱者の悲痛な叫びが波動となり、作品にある空洞の奥底から響いて来るようだ。これからも鋭い視点と豊かな感性を活かした作品創りに期待したい。

講評担当者 屋良 朝彦



新人賞 「灯華」

棚原 麻里奈

県展の美術部門としてはなじみのないジャンルの作品で、鮮やかな濃紺と白の色彩とともに目を引いた。何とも華やかでありながら可憐な、蓮の花が咲いている情景を繊細な切り紙の手法で表している。ただ切り紙とはいっても通常見る、形を切り抜き、平面的に模様を画面に浮かび上がらせるものとは大分かけ離れている。工芸的ではなく、あくまでも絵画として描かれた蓮の花の情景である。細く切られた輪郭線は地の面に張り付いてはおらず、優雅に蓮の葉の形を浮かび上がらせている。暗いバックの中心にぽっと灯った希望の灯りのようにも思える大小の蓮華が2輪、小ぶりのサガリバナを下方の明るい部分にかかるようにそえて、清々しく目にうつってくる作品である。

講評担当者 西村 立子



沖縄県文化振興会理事長賞 「知不知」

鈴木 まこと

日常的に見てはるはずが意識しないで見落としている事が多いのではないか、テーマの着想が面白い。視点を変えてその違いが良くわかり、新しい発見や発想する時の参考になる。ある思考を継続、温めていく中で閃く様に興味深い造形が見えてくるものがあると思う。現代の凄い速さで変わる情報化社会の中で視界の中にはあるが意識しないで見ているので認識していないことが孕む危うさをも示唆している。見ているようでほとんど見ていない。コロナ禍の中で大切なことを見逃さないように気付かせようとするのをこの作品が訴えているかもしれない。平面表現とは違う三次元の陶作品である。鋭く空間を切り裂く様な造形的に美しく下部は重厚な感じでどっしりとしている。上部はかなり薄く切れそうなくらいにシャープになっている。連続していくメビウスの輪のように誘導したイメージが広がる。一瞬、金属の作品と思ったが沖縄の陶土で立体造形し、飛翔する鳥の羽のように見える形状デザインが美しい。センスのある文様はマスキングしてマンゴーの葉で燻した 800 度の割と低い温度で焼成、いぶし銀のような重厚に仕上げている。優れた存在感のある芸術作品に対峙して表現の豊かさや生きるヒントを感じてご覧いただきたい。

講評担当者 佐久本 伸光

奨励賞 「なんきんはぜ」

城間 文雄

城間氏の作品は、自然の風景を切り取ったかのような具象的作品であり、涼しさや爽やかさを感じる心地よい作品となっている。

鉛筆や色鉛筆による緻密で繊細な表現で、葉っぱの一枚一枚を丁寧に描写している。平面作品ではあるが、空間を感じる三層構造として表現しており、一層目の具象的で細密描写としての表情を表現し、二層目では具象ではあるが表現を省略し淡いタッチで奥行きを表現し、三層目は更に省略し奥行きのある空間として描写している。 また、作者は涼しく爽やかな色合いを表現するために、敢えて鉛筆他に色鉛筆を使用し、完成度を高めていると考える。

城間氏の今回の作品は、審査の段階で賞候補として推薦され、緻密で完成度の高い作品として奨励賞となった。

欲を言えば、幹の樹皮表現が単調に感じてしまうため、表現処理の工夫によりさらなる評価へと繋がると思う。今後の制作に期待したい。

講評担当者 赤嶺 雅



美術公募展作品一覧

審査員出展作品

題 名	サイズ	種別	材 質	氏 名
時をつなぐ	93×121	平面	紙・顔料インク	赤 嶺 雅
惜日幻想	F100号	平面	アクリル画	上原 成美
「立ちあがるもの」	160×60×60	立体	板・アクリル彩色	大 城 讓
風景の中で	136×53	平面	水彩	大浜 英治
夏シリーズ	200×149	平面	アクリル	川平 恵造
潮流のラビリンス	F100号	平面	アクリル・パス	佐久本 伸光
少女たちⅡ	F50	平面	油彩	中島 イソ子
しじま	82×102	平面	日本画	西村 立子
南風	162×162	平面	紙(再生紙)、 顔彩	宮里 昌信
MY SPACE	100×100	平面	ミクストメディア	屋良 朝彦

無鑑査出展作品

題 名	サイズ	種別	材 質	氏 名
Emotional / scene'21	180×180	平面	アクリル	池原 優子
Wind scape	187×96	平面	水彩	知念 秀幸
羅漢	162×162	平面	油彩、アクリル	鶴 見 伸
点と位置と	162×162	平面	アクリル	與那嶺 芳恵

美術入選作品

題 名	サイズ	種別	材 質	氏 名	市町村
沖縄県知事賞 黒い森	189×189	平面	油彩	平川 宗信	沖縄市
沖縄県文化振興会理事長賞 知不知	65×50×60	立体	陶土(土器)	鈴木 まこと	那覇市
奨励賞 なんきんはげ	182×182	平面	鉛筆、色鉛筆	城間 文雄	那覇市
奨励賞 沖縄の沈黙	185×183	平面	アクリル、漆喰、 コラージュ	砂川 恵光	浦添市
奨励賞 龍が棲んでいた柱	60×70×140	立体	赤瓦片、赤土、 モルタル	伊志嶺 達雄	名護市
新人賞 灯華	130×50	平面	水彩、アクリル等	棚原 麻里奈	那覇市

美術入選作品

題 名	サイズ	種別	材 質	氏 名	市町村
BEER	27×27	平面	版画、 シルクスクリーン	下地 敏一	宮古市
MIYANOHANA	27×27	平面	版画、 シルクスクリーン	下地 敏一	宮古市
久高島の海風	126×92	平面	水彩	大城 昌光	那覇市
ちんなん	95×115×165	立体	木	仲村 春孝	宜野湾市
クロトン・モザイク	80.5×62.3	平面	押し葉(クロトン)	伊是名 教子	南風原町
MUDAI	100×78	平面	皮、紙、墨、 アクリル	石原 美智子	与那原町
連作55番目	186×186	平面	油性ペン	与那覇 俊	豊見城市
シーサーのある風景	145.5×112	平面	油彩	大城 春信	那覇市
彩海	162×130	平面	油彩	八木 洋子	うるま市
紅型の女	123×173	平面	油彩	添石 良健	沖縄市

美術入選作品

題 名	サイズ	種別	材 質	氏 名	市町村
爽やか青春	162×130	平面	油彩	仲本 潤一郎	沖縄市
万物をはぐくむもの	197×166	平面	油彩	大田 隆男	北中城村
赤い煙り	198×166	平面	油彩	宮城 郁代	那覇市
牧港漁港	174×144	平面	油彩	亀浜 勇吉	那覇市
うる声やつら	132×163.7	平面	アクリル	伊芸 匠志	うるま市
木箱とパン	72×62	平面	油彩	高 嶺 伸	那覇市
Pixel-No.40	91×117	平面	HemPcan VasAchylic	Takahiro Morine	うるま市
雨にぬーじ	167.5×147.5	平面	ミルクの空箱、 アクリル、パネル	外間 あさお	那覇市
ブルチ	30×66×183	立体	紙粘土、 ポリスチレンフォーム	カガミ ジョージ	那覇市
池の端から	165×133	平面	油彩	宮城 旦事	那覇市
遥かなる	178×148	平面	油彩	島田 章一郎	那覇市
路上のカフェ	130×180	平面	油彩	宮 良 修	浦添市
つながり	160×194	平面	キャンバス、 アクリル	仲座 包子	中城村
福木の門	123×96	平面	水彩	崎野 欣二	那覇市
忘れがたき幻想	73.7×104	平面	デジタル(印刷物)	饒平名 飛鳥	那覇市
晩秋の滝	194×130	平面	油彩	前田 初枝	那覇市
街の記憶(5)	45.6×60.6	平面	水性、木版画	安次嶺 勝江	西原町
「逢いたい…」	125×155	平面	紙	三上 優子	うるま市
ミツバチと少女	162×130	平面	油彩、アクリル	津波古 政廣	恩納村
地球の殻	108×78	平面	コピック	たけむらあいか	那覇市

題 名	サイズ	種別	材 質	氏 名	市町村
福木並木の八重瀬町	118×148	平面	油彩	普天間 新	八重瀬町
たそがれの街マテラ	133×97	平面	油彩	大 城 裕	南風原町
がじゅまるの灯り	30×91×30	立体	がじゅまる	眞喜志 英夫	那覇市
刻	180×185	立体	ミクストメディア	松本 幸昌	那覇市
産卵	180×180×20	立体	アクリル、紙粘土	新城 喜一	那覇市
記憶をたどる	100×130	平面	油絵	知念 悦子	北谷町
ミーウガン	57×100	平面	アクリル	新 里 学	浦添市
蟲	93×44×31	立体	鉄	酒井 貴彬	那覇市
首里城	81.8×63.6	平面	押し花	安藤 義枝	糸満市
港の風景	160×130	平面	油彩	狩 俣 正	豊見城市
陶彫-san・zon・zou	80×30×40	立体	陶土	神村 吉次	那覇市
穏やかな日	146×174	平面	油絵	下地 りえこ	那覇市
カタブイ	184×150	平面	アクリル	新屋敷 孝雄	読谷村
原風景	133×165	平面	アクリル	喜屋武 信子	沖縄市
かけぬけた21年・ 貴女の帰還…!!	185.5×95	平面	水彩	饒平名 知健	西原町
巡るライオン	60×82.5	立体	粘土	比嘉 雄太	与那原町
首里城福光シーサー	200×163	平面	首里城瓦礫、24金、 炭材、アクリル	宮城 光男	那覇市
彼方・1945	198.5×184	平面	アクリル	比屋根 清隆	沖縄市
開闢	30×30×129	立体	流木(樹皮)・ 亜鉛・漆喰	荷川取 大祐	うるま市
家庭円満	184.6×184.9	平面	油彩	伊 禮 亮	嘉手納町

書道公募展

年度	回	県知事賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞			新人賞
H8	25	島野 裕司	眞喜屋 美佐		上 地 徹	香 村 ナホ	比 嘉 良 勝	
H9	26	島 尚 美	中 村 裕 美		泉 朝 信	砂 川 榮	比 嘉 良 勝	
H10	27	中 村 裕 美	上 地 徹		新 垣 洋 子	砂 川 榮	浜 口 清 子	
H11	28	神 山 律 子	砂 川 榮		荻 堂 ひろ子	眞喜屋 美佐	与那覇 典子	
H12	29	神 山 律 子	玉 城 君 子		砂 川 榮	高江洲 朝則	眞喜屋 美佐	
H13	30	西蔵盛 英雄	運天 美代子		島 尚 美	長 浜 和 子	比嘉 千鶴子	
H14	31	比嘉 千鶴子	西蔵盛 英雄		金城 多美子	島 尚 美	眞喜屋 美佐	
H15	32	比嘉 さつき	我喜屋 文子		金城 多美子	高江洲 朝則	宮 里 朝 尊	
H16	33	上門 かおり	金城 多美子		高江洲 朝則	長山 りえ子	比嘉 千鶴子	上 原 孝 之
H17	34	高江洲 朝則	志 村 京 子		安 里 友 子	金城 多美子	宮 里 朝 尊	稲 嶺 法 子
H18	35	上 原 貴 子	斉 藤 純 子		與那覇 律子	宮 里 朝 尊	田 頭 節 子	山 里 昌 輝
H19	36	田 頭 節 子	斉 藤 純 子		與那覇 律子	幸 喜 石 子	山 里 昌 輝	該 当 者 な し
H20	37	新 里 明 美	幸 喜 石 子		石川 美智代	上門 かおり	山 里 昌 輝	普 天 間 完 文
H21	38	仲 舩 由 美 子	幸 喜 石 子		仲 里 徹	渡久地 美佐子	具志堅 ナエ子	金城 真理子
H22	39	上門 かおり	山 里 昌 輝		渡久地 美佐子	謝名堂 奈緒子	石川 美智代	喜 友 名 正 子
H23	40	金城 真紀子	新 里 明 美		仲 舩 由 美 子	渡久地 美佐子	松 淳 子	松川 美智子
H24	41	渡慶次 喜代美	石川 美智代		與那城 千恵子	仲 里 徹	大 仲 春 奈	城 間 律 子
H25	42	仲 舩 由 美 子	上 運 天 春 菜		謝名堂 奈緒子	渡慶次 喜代美	田 頭 節 子	安 座 真 賀 子
H26	43	與那覇 律子	仲 里 徹		喜 納 京 子	上 原 千 枝 美	天 久 美 津 枝	大 田 安 子
H27	44	幸 喜 洋 人	謝名堂 奈緒子		石 津 陽 子	仲 里 徹	田 頭 節 子	神 里 和 子
H28	45	眞 謝 幸 代	上 原 千 枝 美		上 原 貴 子	渡慶次 喜代美	田 頭 節 子	福 原 美 枝
H29	46	長 堂 加 代 子		島 津 和 美	神 里 和 子	新 垣 恵 津 子	當 間 秀 美	濱 川 綾 子
H30	47	伊 波 エツ子		仲 宗 根 司	田 頭 節 子	金 城 綾 子	喜 友 名 正 子	該 当 者 な し
R1	48	田 福 宏 美		島 津 和 美	宮 本 康 申	湧 田 市 子	當 間 秀 美	該 当 者 な し
R2	49	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止						
R3	50	知 念 一 正		仲 村 冴 子	天 久 美 津 枝	安 里 涼 子	平 良 祥 太	岸 本 泰 子

写真公募展

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	県議会議長賞	市長会長賞	奨励賞			新人賞
S54	8	末 吉 はじめ	嘉 納 辰 彦			田 中 澄 一	仲 宗 根 直	大 嶺 信 雄	上 原 健 次	小 谷 隆 男	
S55	9	大 嶺 信 雄	名嘉真 朝健			上 原 健 次	比 嘉 清 眞	川 平 幸 雄	照 屋 忠	宮 平 秀 昭	
S56	10	嘉 納 辰 彦	大 城 喜 一 郎			原 田 欣 哉	上 地 完 徳	大 城 信 吉	隅 田 伸 之	久 田 友 福	
S57	11	該 当 者 な し	田 場 盛 雄			村 澤 仲 裕	久田友福・大城信吉	川 平 幸 雄	我 那 覇 生 守	新 里 和 子	
S58	12	比 嘉 朝 之	上 地 完 徳					大 城 信 吉	久 田 友 福	村 瀬 武 文	
S59	13	大 城 信 吉	中 村 正 文					知 念 清 市	久 田 友 福	宮 城 信 秀	
S60	14	屋 良 朝 栄		吉直 新一郎				崎 山 佳 裕	比 嘉 朝 之	前 原 常 男	
S61	15	嘉 数 繁 光		大 城 幸 信				上 原 健 次	坂 井 和 夫	仲 米 政 雄	
S62	16	阿 波 連 勲		金 城 幸 彦				浦 本 寛 史	高 塚 勝 巳	新 田 健 夫	
S63	17	安 田 敬 子		末 吉 はじめ				伊 佐 美 砂	金 城 幸 彦	知 念 佑 子	
H1	18	牧 直 實		伊 芸 元 一				上 原 健 次	知 花 照 子	比 嘉 朝 之	
H2	19	嘉 数 和 子		比 嘉 睦 子				金 城 幸 彦	儀 間 真 人	名嘉真 朝健	
H3	20	金 城 幸 彦		平 井 毅				大 川 修	翁 長 正 則	宮 本 伝	
H4	21	金 城 幸 彦		知 花 照 子				比 嘉 文 雄	宮 本 伝	山 川 宥 元	
H5	22	松 門 重 雄		島 袋 正 然				伊 芸 元 一	上 地 キミ子	新 田 健 夫	
H6	23	登 野 城 安 則		祖 慶 良 勇				上 地 キミ子	仲 宗 根 直	平 良 克 之	
H7	24	富 平 実		伊 芸 元 一				上 地 キミ子	崎 山 洋 子	比 嘉 睦 子	
H8	25	上 地 キミ子		諸 見 里 光 子				金 城 一 史	山 城 正 雄	与那城 武旭	
H9	26	染 矢 尚 武		松 門 重 雄				喜 名 朝 駿	友 利 孝 子	豊 島 貞 夫	
H10	27	知 名 信 子		染 矢 尚 武				瀬 良 垣 馨	平 良 克 之	眞 栄 田 久 嗣	
H11	28	平 良 幸 江		親 泊 秀 尚				阿 南 鐵 司	上 地 キミ子	与那城 壮旭	
H12	29	中 山 興 也		波 平 常 則				石 川 敬 介	喜 名 朝 駿	當 眞 嗣 範	
H13	30	瑞 慶 覧 進		山 城 和 代				喜 名 朝 駿	祖 慶 良 勇	与那城 壮旭	
H14	31	喜 名 朝 駿		山 城 盛 達				佐 久 田 尚 昌	長 堂 嘉 秀	宮 城 義 亨	
H15	32	国 吉 倬 明		祖 慶 良 勇				翁 長 盛 武	添 石 幸 安	富 平 実	
H16	33	仲 村 千 佳 子		福 村 安 弘				小 渡 静 男	島 袋 弘	山 田 浩	松 本 達 子
H17	34	翁 長 盛 武		山 城 和 代				上 原 健 次	木 村 正 男	島 元 智	しんざとえいじ
H18	35	仲 村 千 佳 子		比 嘉 清 眞				仲 村 繁	小 嶺 朝 子	松 本 達 子	森 山 ひろみ
H19	36	辺 辻 名 朝 功		吉直 新一郎				比 嘉 清 眞	松 山 朝 雄	岩 城 禮 子	島 尻 郁 美
H20	37	吉直 新一郎		比 嘉 清 眞				宇 栄 原 格	波 平 栄 宏	豊 平 信 則	泉 谷 壘
H21	38	添 石 艶 子		大 嶺 勝 美				南 研 作	西 原 けんじ	宮 良 文	比 嘉 正 栄
H22	39	島 元 智		国 吉 倬 明				新 城 直 美	高 野 生 優	比 嘉 清 眞	城 間 由 美 子
H23	40	島 元 智		島 袋 陽 子				比 嘉 清 眞	渡 久 地 政 修	宮 良 文	長 堂 哲
H24	41	山 内 弘 子		田 中 優 子				祖 慶 良 勇	島 袋 メリ子	福 盛 庸 夫	又 吉 国 夫
H25	42	砂 川 悦 子		新 垣 フミ子				泉 朝 順	木 戸 栄 里	大 嶺 自 栄	兼 島 正

写真公募展

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	県議会議長賞	市長会長賞	奨励賞			新人賞
H26	43	山 内 昌 昭		宮 城 米 子				羽 地 良 磨	山 内 弘 子	城 間 由 美 子	原 国 政 裕
H27	44	稲 嶺 もりみつ		山 内 昌 昭				宮 義 洋 史	知 念 信 雄	大 川 盛 安	幸 喜 あかり
H28	45	又 吉 英 男		眞 栄 城 浩				宮 城 米 子	城 間 由 美 子	金 城 直 也	永 味 節 子
H29	46	宮 義 洋 史			新 城 直 美			花 城 雅 孝	與 儀 美 奈 子	我 喜 屋 功	親 富 祖 勝 枝
H30	47	玉 城 健 次 郎			大 城 敏 雄			砂 川 悦 子	喜 屋 武 敬 子	名 嘉 元 希	天 久 昌 子
R1	48	添 石 艶 子			John H. Tien			安 田 正 昭	新 垣 フミ子	城 間 由 美 子	中 村 秀 雄
R2	49	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止									
R3	50	屋 富 祖 良 敬			玉 城 健 次 郎			名 嘉 久 美 子	正 木 スエ子	長 濱 大	島 田 美 佐 子

美術公募展

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞				新人賞
S52	6	永 山 信 春	我如古 彰一			上 原 隆 昭	米須 敏 三 郎			
S53	7	米須 敏 三 郎	尚 武			川 平 恵 造	比 嘉 良 二	屋 良 朝 春		
S54	8	永 山 信 春	米須 敏 三 郎			川 平 恵 造	比 嘉 良 二	与那覇 朝大		
S55	9	与那覇 朝大	喜友名 朝紀			朝内 信二郎	新垣 安雄	瑞慶山 昇	能 山 宗 忠	
S56	10	川 平 恵 造	青 山 映 二			新 城 剛	砂 川 喜 代	比 嘉 良 二		
S57	11	宮 城 和 邦	浦 崎 彦 志			上江洲 由朗	川 平 恵 造	当 山 進		
S58	12	川 平 恵 造	和宇慶 朝健			伊 本 隆 一	上江洲 由朗	宮 城 孝 也		
S59	13	和宇慶 朝健	屋 良 朝 彦			伊 本 隆 一	砂 川 喜 代	和宇慶 朝健		
S60	14	上江洲 由朗		比 嘉 良 二		鎮 西 公 子	仲 宗 根 清 山	内 盛 博	屋 良 朝 彦	
S61	15	上江洲 由朗		金 城 満		伊良部 恵勝	金 城 準 子	宮 城 孝 也		
S62	16	島袋 喜代子		伊良部 恵勝		金 城 準 子	知 名 久 夫	山 田 武		
S63	17	金 城 満		宮 里 顕		叶 英 樹	知 名 久 夫	屋 良 朝 彦		
H1	18	新垣 正一		屋 良 朝 彦		叶 英 樹	三 木 元 子	山 内 盛 博		
H2	19	宮 里 昌 健		長 嶺 斉		奥 原 崇 典	瑞慶山 昇	仲 村 春 孝		
H3	20	仲 里 安 広		新 崎 竜 也		奥 本 静 江	佐 久 間 盛 義	瑞慶山 昇		
H4	21	奥 本 静 江		知 念 秀 幸		知 名 久 夫	仲 本 清 隆	宮 城 和 邦	宮 里 昌 健	
H5	22	知 念 秀 幸		池宮城 智子		玉 城 正 明	知 念 盛 一	比 嘉 良 徳		
H6	23	又 吉 邦 華		比 嘉 良 徳		稲嶺 盛一郎	上 原 仁 輔	三 木 元 子		
H7	24	赤 嶺 雅		大 城 朝 康		叶 ひ で き	志 喜 屋 徹	花 城 勉		
H8	25	花 城 勉		宮 城 あすか		赤 嶺 雅	奥 原 崇 典	我 謝 弘 行		
H9	26	大 城 久 美 子		津 波 古 稔		新垣 盛秀	磯 村 茂	玉 城 正 明		
H10	27	松 本 妙 子		三 木 元 子		奥 本 静 江	西 平 賀 雄	根 間 智 子		
H11	28	永 原 達 郎		根 間 智 子		親 川 松 清	佐 久 本 米 子	堀 川 恭 昭		
H12	29	津 波 古 稔		豊 永 盛 人		安 里 充 広	小橋川 清一	宮 城 和 邦		
H13	30	与那嶺 芳恵		安 富 幸 子		大 城 久 美 子	叶 ひ で き	佐 久 本 米 子		
H14	31	山 川 さ や か		樹 井 昌 智		栗 山 絵 美 子	佐 久 本 米 子	宮 里 ユキ子		
H15	32	富 元 明 雄		与那嶺 芳恵		佐 久 本 米 子	安 富 幸 子	山 川 さ や か		
H16	33	波 平 栄 宏		池 原 優 子		栗 山 絵 美 子	富 元 明 雄	宮 里 ユキ子	富名腰 ヨシ子	
H17	34	池 原 優 子		富名腰 ヨシ子		上 原 は ま 子	河 原 圭 祐	安 富 幸 子	野 津 唯 市	
H18	35	島 袋 洋		釘 本 成 行		仲 本 潤 光	平 川 宗 信	上 原 英 樹	濱 元 朝 和	
H19	36	佐 久 本 米 子		橋 本 弘 徳		玉 城 正 明	城 間 義 夫	野 津 唯 市	宜 保 和 可 乃	
H20	37	奥 原 崇 典		宮 城 翔 子		野 津 唯 市	太 田 成 美	上 原 英 樹	栗 山 ルリ子	
H21	38	普天間 実佳		栗 山 ルリ子		宮 里 友 三	上 原 義 正	玉那覇 英人	宮 城 オ 子	
H22	39	仲 里 安 広		玉那覇 英人		鶴 見 伸	宮 里 友 三	濱 口 真 央	並 里 幸 太	
H23	40	鶴 見 伸		宮 里 昌 信		嵩 原 武 子	與 那 覇 勉	玉那覇 英人	中 澤 将	
H24	41	玉那覇 英人		宮 里 昌 信		鶴 見 伸	伊 波 則 雄	與 那 覇 勉	金 城 知 美	
H25	42	伊 波 則 雄		宮 里 昌 信		宮 里 友 三	具 志 堅 古 秀	中 澤 将	朝 妻 彰	
H26	43	鶴 見 伸		與 那 覇 勉		北 山 千 雅 子	具 志 堅 古 秀	伊 波 則 雄	伊志嶺 達雄	
H27	44	山 城 道		與 那 覇 勉		仲 程 悦 子	金 城 恵 美 子	北 山 千 雅 子	饒 平 名 知 健	
H28	45	北 山 千 雅 子		嵩 原 武 子		伊 波 則 雄	仲 程 悦 子	松 本 幸 昌	華 山 聖 作	
H29	46	小 泉 ゆ り か			伊 波 則 雄	與 那 覇 勉	仲 宗 根 市 子	並 里 幸 太	齋 悠 記	
H30	47	伊志嶺 達雄			平 川 宗 信	與 那 覇 勉	仲 程 悦 子	仲 座 包 子	カガミ ジョージ	
R1	48	齋 悠 記			福 田 直 樹	與 那 覇 勉	平 川 宗 信	松 本 幸 昌	浦 田 健 二	
R2	49	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止								
R3	50	平 川 宗 信			鈴木 まこと	城 間 文 雄	砂 川 恵 光	伊志嶺 達雄		棚 原 麻 里 奈